

令和4年度 1人1台端末の活用による実践事例

学 校 名	岡山県立林野高等学校		
実践者等	小山 菜摘	実践日	令和4年4月27日
実践場面 <small>(教科・科目(単元名)、学校行事等)</small>	現代の国語(言葉のネットワーク)		
対象生徒(学年等)	普通科1年		
育成を目指す資質・能力	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・技能 <input checked="" type="checkbox"/> 思考力・判断力・表現力等 <input checked="" type="checkbox"/> 学びに向かう力・人間性等		

分類	授 業 中	<input type="checkbox"/> クラウドやアプリの活用 <input type="checkbox"/> デジタルデータの保存 <input checked="" type="checkbox"/> 思考やデータの可視化
		<input checked="" type="checkbox"/> データの共有や共同編集 <input checked="" type="checkbox"/> 対話を充実させる活用 <input checked="" type="checkbox"/> 思考を促す活用
		<input checked="" type="checkbox"/> 表現を充実させる活用 <input type="checkbox"/> 課題のやり取りと評価の支援 <input checked="" type="checkbox"/> 効率化や省力化
		<input type="checkbox"/> その他()
	家庭学習	<input checked="" type="checkbox"/> 振り返り <input type="checkbox"/> 探究 <input type="checkbox"/> 反転学習 <input type="checkbox"/> 補習・定着

実践の内容

【授業】

(1) 前時の振り返り

- ・ 本時の前3回の授業では、対義語・類義語・上位語・同位語・下位語・関連語があることを学習した。
- ・ 前時までのプリントを見ながら、それぞれの語の特徴を確認させ、それを基に、「言葉の樹」を作成することを伝えた。

(2) Jamboard を使って「言葉の樹」を作成させる。

- ・ 「言葉の樹」とは一つの言葉から連想される語を一面に書き出したもののことを指す。
- ・ 4人1班を作成し、班のメンバーと協力して、Jamboard上にできるだけカラフルな「言葉の樹」を作成させた。
- ・ ここで「カラフルな」という指定をしているのは、Jamboardのふせんの色機能を活用し、これまでに学習してきた言葉の体系を可視化させるためである。(右の画像は生徒への指示)



班のメンバーと協力して、できるだけカラフルな言葉の樹を作成しましょう。

- ① 班の番号と同じ番号のジャムボードに移動する。
- ② 真ん中の四角のなかに、班で話し合った単語を一つ入れる。
- ③ 真ん中の語から連想される語をふせんに書く。
その際、ふせんの色を以下のものにする。
 ・対義語・・・黄色 ・類義語・・・黄緑色 ・上位語・・・水色
 ・同位語・・・ピンク色 ・下位語・・・オレンジ色 ・関連語・・・透明

【評価のめやす】
 A・・・連想される語を20個以上書けている。かつ全ての色のふせんを使用することができている。
 B・・・連想される語を15個以上書けている。かつ3色以上のふせんを使用することができている。
 C・・・連想される語を10個以上書けている。

(3) 本時の振り返り

- ・ 列挙することが難しい対義語・上位語に着目し、全体にフィードバックした。
- ・ 文章を読む際にも同じ考え方の枠組みを活用することができることを伝えた。



【本時と家庭学習との連動】